

評価項目	重点目標	具体的対策（手段）及び数値目標	学校の自己評価コメント	自己 評定	評定	学校関係者評価コメント
【確かな学力の向上】	① 生徒の学習意欲を高め、教科指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の学習目標・めあてを明確にし、ICTを含む教材・教具の工夫を図る。 ・諸検査を活用し、生徒の学力の課題を見つけ出し、授業の実施および分析を行うことで、その克服に努める。 ・生徒の学習意欲等のアンケート調査を実施し、授業に対する満足度の割合が80%以上をめざす。 4：80%以上 3：60%以上 2：40%以上 1：40%未満 	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン、大型テレビ、実物投影機はかなりの学級、教科で活用が図られている。お互いの授業を参観したり、研究授業を実施したりして、教科指導の充実に努めた。 ・NRT（標準学力テスト）とみやざき小中学校学習状況調査を、教科ごと学年ごとに分析し、学年の課題を洗い出し、学年ごとに手立てを検討した。 ・生徒の学習意欲等のアンケートを実施し、授業に対する満足度の割合が73%であった。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲の喚起を図るため、いろいろと学習法の工夫改善に努力し、かなりの成果が感じられる。 ・ICTを活用できる教材研究に努めてほしい。 ・授業に対する満足度が、昨年の割合71%を少しではあるが、今年度は73%となっており、先生方の授業内容の改善がなされたようだ。 ・学年の課題について検討されているが、それぞれ生徒一人一人に生かしていく方法を考えてほしい。 ・子どもたちのアンケートで「授業が分かり楽しい」という項目があるが、2・3年は全体的に評価が上がっているのに比べて、1年生で下がっているのが気になる。31%の子どもが「わからない。楽しくない。」と感じているようなので、学習意欲を喚起するための早めの手だてが必要ではないか。 ・学習状況調査を細かく分析されていて感心した。 ・すべての学年において意欲等の割合が均等である。1年生の授業でいかに意欲を出させるかが重要である。もちろん、小学校のときから必要である。 ・「あまり思わない」「思わない」の層をどう上に持って行くかが大事な取組だと思ふ。
	② 「学習の心得五ヶ条」の指導徹底を図り、学業指導の充実に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度確立週間の活用を通して、姿勢を重視し、授業についての教科ごとの指導充実に努める。 ・授業中の学習態度A評価の割合が90%以上をめざす。 4：90%以上 3：80%以上 2：70%以上 1：70%未満 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の「学習態度確立週間」において、授業担当教員における毎時間のチェック（チャイム着、忘れ物、態度等）や係による呼びかけを行っている。また、各月ごとに重点項目を変えて取り組んでいる。 ・ほとんど学級で学習態度がAと評価された（大変良い）評価された割合が90%を越えているが、学習の心得五ヶ条全てについて定着しているとは言えない。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の態度を観察すると、基本的な学習習慣が定着しているように感じられる。 ・個に応じた指導や支援を行うことで改善がみられるのではないかな。 ・参観日などで、授業中の学習態度を見ていても、落ち着きがあり、グループ協議など行う際の移動も速やかに行われていると思う。 ・チャイム着席ができていなかった数を見てみると、特定のクラスが突出して悪い月があるようだ。クラスの持つ雰囲気というものがあるのだろうが、人に迷惑をかけない姿勢を繰り返し教える必要があるのではないかな。 ・オープンスクールに参加して、どのクラスも楽しそうに授業していたのが心に残った。 ・やっぱり周りの環境が大事である。 ・「あまり思わない」「思わない」の層をどう上に持って行くかが大事な取組だと思ふ。
	③ キャリア教育の充実に努め、生徒一人一人の個性に応じた進路指導を推進する。教師の指導内容を研究や経営方針と絡めて検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査を計画的に実施するとともに、情報提供（進路に関する掲示物の活用、進路便りの発行）を積極的に行い、生徒の進路に対する意識を高める。 ・年間指導計画に基づいて、道徳、学活、総合的な学習の時間を関連づけた各学年の進路指導を意図的・計画的に行う。 ・「夢や進路について考えている」生徒の割合が85%以上をめざす。 4：85%以上 3：75%以上 2：65%以上 1：65%未満 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査や進路に関する情報提供は定期的にてきている。 ・学級活動と総合的な学習の時間を結びつけて、1学年は職業についての学習、2学年は職場体験学習、3学年は進学説明会（2回）を実施することができた。 ・アンケートの結果、「進路について考えるようになった」生徒の割合は86%であるが、1、2年生の進路意識がまだまだ低いので、これからも継続して、高めるように工夫していく必要がある。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒達の進路に対する意識の高揚が感じられる。やはり計画的な進路指導が大切であると思われる。 ・今の生徒たちに、本気で将来に向けて学びたいと思わせることは、社会全体の課題だと思ふ。 ・進路希望調査は行われているが、希望と実際の成績との差の現実的なことも、しっかりと伝えてほしい。 ・進路指導の充実により、3年生は97%の子どもたちが「考えるようになった」と回答している。これは大変すばらしいことだと思う。 ・学校だけでは限度があると思うので、家庭でも話し合える機会があると良い。 ・1学年から、ゆっくりと各種の活動を継続できれば十分だと思う。
	④ 家庭学習2時間以上を目標とした指導および家庭への啓発を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の仕方を、各教科および学級で具体的に指導を行う。 ・課題を確実にを行うために、サルビアノートへの記入徹底を行う。 ・学級通信や学校便り等の発行を通して、家庭への啓発を行う。 ・宅習2時間を達成した割合が80%以上をめざす。 4：80%以上 3：60%以上 2：40%以上 1：40%未満 	<ul style="list-style-type: none"> ・サルビアノートは毎日学級担任がチェックし、その活用についてはその都度個人的に指導しているが、全ての生徒が十分な家庭学習をできる状況にはなっていない。 ・ほとんどの学級で学級通信を、全学年で学年通信を発行しており、学習に関する内容について触れることができていた。 ・宅習時間2時間以上を達成した割合は、3年生が80%以上であるが、1、2年生は50%程度なので、取組に差が見られる。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の充実やはり保護者との連携が大切であり、その深化が感じられる。 ・1年生には、自ら立てた計画が実行できなかった原因を突き止めて、対策を考えてほしい。 ・1、2年生は進路意識が低いため、サルビアノート充実には至っていないと思う。 ・宅習の効果的なやり方を十分指導してほしい。 ・サルビアノートは、生活の記録と生徒は使いづらいのではないかな。宿題は各教科で出されると思うのでサルビアノートの宅習をやめ、本人の自覚に任せて自由に勉強させてよいのではないだろうか。 ・小学校からの習慣がありますが、先生方の力に期待します。 ・「すべての生徒が十分な家庭学習をできる状況になっていない」の背景が十分把握されているのか。 ・宅習時間の達成割合は、学年での目標があってもいいのではないかな。

【生徒指導・豊かな心の育成】	①	心豊かな生徒を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> いじめ根絶週間や教育相談を通して、他者を気遣える生徒の育成をめざす。 生徒の自己評価で「相手を傷つける言葉を言わなかった」と答える生徒の割合が80%以上をめざす。 4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ根絶週間や教育相談週間は、予定通り実施できた。 いじめ相談員と生活委員会を中心に集会の実施や点検活動により意識は高まった。 少数ではあるが、いじめの実態がある。(小学生期の問題を引きずっている傾向が多く見られた。) 思いやりの心が身についていると思う生徒は80%以上いる。 いじめの課題に対して、全校で考える場面、クラスで対策を考える場面、教師から人権学習で指導を受ける場面等それぞれがリンクした形で取り組むことができた。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同志の人間関係及び、生徒と教師の信頼関係の醸成等、努力の成果が感じられる。 NGワードの掲示とともに、肯定的な言葉の掲示もあっていいと思う。 少数であるが、学校が把握できており、生徒も先生方に相談できる環境であってよかったと思う。 いじめを根絶するための取組は必要である。現実的には「いじめられるタイプ」があると言われるが、そういうタイプの生徒の能力を、小さな成功体験を重ねさせることで伸ばし、自信を持たせる指導はできないだろうか。 いじめ根絶は100%を目指してほしい。 生徒たちがいつでも先生に何でも言える雰囲気は今以上につくってほしい。また、小学校と情報共有を今以上に密にしてほしい。 いじめの実態があれば、組織全体(学校・保護者・生徒・市等)で情報を共有しながら取り組んでいこうと思う。
	②	情報機器を適切に活用する態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラルに関する集会や授業を通して、情報や機器の適切な活用について啓発を行う。 「情報や機器を適切に活用(個人情報の保護、誹謗中傷の有無など)できている」と答える生徒の割合が90%以上をめざす。 4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満 	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラル集会として、インターネットの使用について講話を行った。 インターネットを正しく利用している生徒は95%以上である。 地区懇談会において、小学校の保護者・中学校の保護者、地域の方が一堂に会している場で、子どものネット被害を防ぐために具体的なアプリを紹介しながら、保護に協力をお願いすることができた。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 教育機器の効果的な活用が図られている。また、保護者の理解及び協力もできているものと思われる。 家庭との連携は今後も続けていく必要がある。 「情報モラル・インターネット・SNSなどのトラブルの怖さ」などの啓発を常にしていきたいと思う。 子どものネット被害防止の取組については評価できる。しかし、人間の「危機管理」にはばらつきがある。ネット被害が、それぞれの人生に悪影響を与えることをイメージしやすい方法を考える必要がある。 SNSの使い方を親が知っていれば、ある程度子どもの指導ができるので、親への啓発活動も必要ではないだろうか。 親子・先生も含め、正しい利用をしていく。
	③	三清清掃(時、場、心の清掃)に則って、一生懸命清掃する態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 清掃態度徹底週間の点検活動を確実にやり、三清清掃の徹底を図る。 点検結果から、「無言で、時間いっぱい清掃している」生徒の割合が90%以上をめざす。 4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満 	<ul style="list-style-type: none"> 無言で時間いっぱい清掃ができている生徒は94%である。 清掃態度徹底週間や点検活動を実施できた。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 環境美化への心が定着しつつあるものと感じられる。きれいにすることも大切であるが、まずは汚さないそして話したら自ら綺麗にする心が大切と思われる。 清掃中の子どもの様子を見かけることが何回かあったが、よく頑張っていると感じた。 無言清掃はいつみてもすごいと思う。きちんとできている。 無言で時間いっぱい作業をすることが、月を追うごとにならなくなってきているようだ。特に1年生の成長が素晴らしい。 生徒一人一人が三清清掃の必要性を感じていることはすごくうれしいことです。 よくできている。
【健康・体力づくり】	①	健康・規則正しい生活に対する意識や実践力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 健康振り返りカードを使い、自己分析させ、課題意識をもたせる。 生徒主体の活動による健康教育を進める。 12時までに寝ることができた生徒の割合が80%以上をめざす。 4:80%以上 3:75%以上 2:70%以上 1:70%未満 	<ul style="list-style-type: none"> 健康振り返りカードを記入することで、自分の健康に関する問題を把握し、意識して生活する生徒が多くなった。 生徒の活動は出来ているが、主体性にやや欠ける。 12時までの就寝は、8割の生徒が出来ているが、一部遅い生徒は固定化している。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣が定着しているものと思われる。保護者の意識も定着しているものと思われる。 睡眠と学習効果や健康の関連について、生徒たちに講話などの機会を設け、啓発していくことも必要だと思う。 規則正しい生活や治療などは、家庭の協力も大切だと思う。 睡眠の妨げとなる、テレビやスマートフォンの「ブルーライト」については、時間をとって説明した方がいいのではないかと。 健康振り返りカードを記入する取り組みは、数値化し把握することができるので大変良いと思う。 家庭環境もあるが、本人の自覚で変えることができるので、今以上の情報提供をお願いします。 家庭内での意欲の向上が重要である。
	②	給食マナー5カ条の徹底を図り、食に関する指導・給食指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 1日の食事(朝食・昼食・夕食)の栄養バランス、エネルギー量等を自分の生活スタイルに合わせて考えさせる。 食事のマナーや食に対する感謝の心を育てる指導を充実させる。 給食指導週間の点検項目のA評価が80%以上をめざす。 4:80%以上 3:75%以上 2:70%以上 1:70%未満 	<ul style="list-style-type: none"> 給食準備片づけの時間に関する項目が8割に満たず、今一步であった。生徒主体の活動を促し、今後も継続して指導していきたい。 弁当の日は実施できた。放送による給食感謝集会も実施できた。 通常の残食量は多くても5~10kgであるが、1月はインフルエンザの流行により残食量が52.2kgと多かった。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 特に食習慣では、食べ物大切に食べる気持ち及び、マナー等がきわめて大切であると思う。世界中の人達との会食の機会も増えていくと思われるので、その定着を図っていただきたい。 通常の残食が少なく、非常に良いと感じた。 弁当の日は子どもの会話を増やすきっかけづくりにもなるので良いと思う。 朝食を作らない家庭に対して、健康面から親へ訴える機会を持つてはどうだろうか。 給食のありがたさを実感するのは、高校や社会に出てからだと思う。感謝の気持ちをもってできるだけ完食してほしい。3年生の1月の残食量が0kgなのは素晴らしい。 給食時間内であれば、残食量が少なくなるように、生徒の自主性を活かした活動
	③	安全・防災教育を充実させ、安全意識の高揚、危機回避能力の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検を行い、危険箇所の把握、改善を行う。 避難訓練や防災教育を通して、防災に関する意識を高め、日常生活の過ごし方や行動につなげさせる。 避難訓練に対する評価項目のA評価が90%以上をめざす。 4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満 	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検は、毎月きちんと行われ、生徒と職員目目でチェックした後、出来る部分は職員で、出来ない部分は業者や教育委員会にお願いして、確実に改善が図られている。年度当初は30か所ほどあった修繕箇所が最後は6か所ほどになった。 12月の避難訓練(火災)は、生徒の防災意識を高めるため、生徒には事前の予告なしに抜き打ちで実施した。避難訓練に対する評価Aの生徒が96%であり、おおむね防災意識を高めることができた。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 命の大切さのさらなる意識の高揚を進めていきたいものと思う。 これからも、様々な状況での抜き打ち避難訓練を実施してもらいたい。 避難訓練の際、いざという時、家族と最終的にはどこに避難するかという再確認の必要性もあると思う。もちろん家庭でも行うべきである。 登校・下校時の災害(特に巨大地震・津波)発生時の避難訓練について考えていく必要があるのではないかと。

【地域教育の推進・開かれた学校づくり】	①	<p>各種通信やHPの充実等情報発信を積極的に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種通信の計画的な発行に努める。 HPを毎月更新する率80%をめざす。 4：80%以上 3：70%以上 2：60%以上 1：50%未満 	<ul style="list-style-type: none"> 学校便り、学年通信、学級通信は定期的に適宜発行することができた。学校の様子など家庭にお知らせすることができた。 HPは9月より定期的に更新できている。途中滞った時もあったが、概ね定期的に更新できた。 	3	4	<ul style="list-style-type: none"> 学校を知っていただく、先生達の気持ちをわかっていただくことが大切だと思う。多忙の中に継続を頑張ってください。 現状でも十分な情報の提供ができていると感じる。 各種便り、通信は詳しく丁寧にされていたと思う。 学校だよりはよくわかり素晴らしいと思う。これかも色々な方面の記事を載せてほしい。 いつもHPを見ていて楽しみである。無理なく更新を続けてほしい。
	②	<p>地域資源（人材、素材等）の積極的な活用を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間、道徳の時間等で、地域人材、郷土資料を使った授業を、各学年、年3回以上の実施をめざす。 実施回数が 4：3回以上 3：2回 2：1回 1：0回 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳では啓次郎の日、総合的な学習の時間においては宮崎の自然、宮崎の歴史、礼法指導、職業講話、職場体験学習等に、学校行事では小中合同避難訓練、交通教室等で地域人材と郷土資料の活用を図ることができた。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 更に諸教育活動の充実を図っていただきたい。 避難訓練が、小中連携で実践できていることは大変すばらしい。 総合的な学習の時間は、生徒の気持ちの変化をもたらしてくれる時間だったと思う。
	③	<p>地域との連携を図ったボランティア活動を年間計画的に沿って行い、内容の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会の活動を積極的に行い、ボランティア活動の参加を推進する。 年間2種類以上のボランティアに参加する生徒が90%以上をめざす。 4：90%以上 3：80%以上 2：70%以上 1：70%未満 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会は、自主的活動として学級ごとの朝の清掃活動を計画するなど、全校生徒を巻き込んだ活動を企画・運営することができた。 後期アンケートで、2種類以上のボランティアに参加した生徒の割合は72%であったが、1回以上のボランティア活動に参加している生徒は97%であり、3回以上も約半分いる。積極的にボランティア活動に参加しようという雰囲気は高まってきている。 青少年育成協議会や地域づくり協議会の主催する行事に、ボランティアとして参加する生徒の数も増えている。 地域ボランティア「お助け隊」には132名の生徒が参加した。 	2	3	<ul style="list-style-type: none"> 生徒も先生方も部活動や諸活動等で多忙だと思う。従って、生徒たちは精いっぱいだと思うので、ボランティア活動等ではその精選を十分やっていただいて進めていただきたい。 ボランティアに対する生徒の意識は高いと感じる。 ボランティア活動に積極的に参加している生徒が多く、生き生きと活動している。 ボランティア活動を行う目的、意義を、十分生徒に理解させて、活動に参加させてほしい。 地域の様々な教員に中学生がボランティアとして参加しているのは大変良いことだと思う。今後、他の団体等にも呼び掛けて、ボランティアの場を増やし、活動を広げることができると良いと思う。地域づくりか青少協に窓口を作り、一覧表を作成する案が出ているので協力してほしい。 参加回数0回をなくすように、地域(自治会)との話し合いを増やし、参加可能な行事や役割を増やす必要がある。 生徒はよく参加して、頑張っている。
【特別支援教育の充実】	①	<p>生徒一人一人のニーズに応じた教育支援システムを構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別の支援計画、指導計画の整備・活用に努める。 個別の支援計画、指導計画が必要な生徒の把握と対応及び進捗について、各学年で定期的に検討を行う。(学期1回以上) 4：年間3回以上 3：年間2回 2：年間1回 1：年間0回 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援計画と指導計画は整備できた。 個別の支援計画に合理的配慮の視点を年度途中に加え、より細かい支援ができるよう配慮した。指導計画とともに来年度に向けての引継ぎを確実に行う予定である。 各学年(全体)での生徒の把握と対応については、その都度共通理解しながら進めてきた。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 授業を参観する限り、一生懸命ご指導していただいていると思う。 細やかな支援や対応のために、周囲の生徒のサポートも得られるように、手立てを講じてはどうだろうか。 先生方が生徒のことを理解し、個別指導を行ってくれたと思う。 人にはそれぞれ「持ち味」がある。その持ち味に気づき、それを活かすような支援を、更に続けていただきたい。
	②	<p>校内支援委員会の活用を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内支援教育推進委員会の定期的な開催(月1回)を行う。 4：月2回 3：月1回 2：平均月1回未満 1：年間0回 校内支援教育推進委員会での検討内容をもとに、全職員での共通理解を確実に進行。(朝の生徒指導連絡会の活用 週1回開催) 4：毎週 3：月3回 2：月2回 1：月1回以下 	<ul style="list-style-type: none"> 校内特別支援教育推進委員会は、月2回以上実施できている(生徒指導対策委員会の活用)。 校内特別支援教育推進委員会を受けて、月2回以上は、全職員への報告と共通理解を確実に進めている(生徒指導連絡会の活用)。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> さらなる充実を期待している。 特別に支援を要する生徒の指導方法については、全職員が同じ認識、理解をし、実践できることが必要だと思う。 委員会の定期的な開催や職員の共通理解は、特別支援教育にとって、とても大切と思う。
	③	<p>特別支援教育に関する専門性の向上につながる研修の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学期1回以上は、特別支援教育に関する研修を実施する。 4：年間3回以上 3：年間2回 2：年間1回 1：年間0回 必要に応じて来校を求めるなど、関係機関との連携に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育の研修は年3回実施できた。 主な内容は、生徒理解、生徒の指導・支援の在り方に関する応用行動分析、ユニバーサルデザイン・アクセシブルデザインを導入した授業の実践について等である。関係機関として、宮崎県中央発達障害者支援センター、みやざき中央支援学校、さくら聴覚支援学校、宮崎東病院、広瀬小学校、県立佐土原高校等との連携に努めた。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 全職員の理解及び支援・協力が極めて大切だと思う。 特別支援教育のさらなる充実に向けて取り組まれていると思う。 専門性の向上と共に、人権尊重につながる内容だと思うので、特別支援教育はこの先も必要なことだと思う。 特別支援教育の研修を実施し、職員で情報を共有して取り組むことは素晴らしいと思うので、今後とも続けてほしい。